

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立高志館高等学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野で新たな取り組みを始め、魅力ある学校づくりと地域への情報発信に重点をおいて取り組んできた。 ・進路保障や部活動・農業クラブ活動の活性化では、確かな実績を積み上げることができた。 ・生徒指導上の諸問題が多かったことから、指導体制を見直し、風通しのよい教育環境の整備に取り組む。 ・ICT活用教育を推進し、わかる授業の徹底と専門高校としての教育内容の充実を図る。
---------------	--

2 学校教育目標	<p>校訓「高志深心」の理念を指針として訓育に努める。</p> <p>① 学業の充実 ② 基本的生活習慣の確立 ③ 生徒会活動・農業クラブ活動・部活動・ボランティア活動の活性化 ④ 信頼される開かれた学校の推進 ⑤ 専門教科の教育内容及び施設・設備の充実</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>スローガン「ステップアップ高志館」－マナーの向上と更なる成長を目指して－</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が高い志を持ち、自らの可能性を信じて更なる「成長」を目指せるよう、授業と部活動の充実に努め、生徒が力を試す挑戦の場を多く準備する。 ○時代とともに技術は変化するが、身につけた精神は生き方を支えることを生徒に理解させ、さまざまな教育活動をとらして社会に貢献できる「人間力」を身につけさせる。 ○先が見えない時代にあっては、常に考え、課題を解決する「課題解決力」が備わっていることが必要であるとの認識を持ち、生徒に今は何をすべきかを常に考えさせ、課題や責任を果たさせる中で自信を芽生えさせ、自立しようとする気持ちを育む。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○朝の読書を通じた読解力の育成。	○学校図書館の貸し出し冊数が前年度を上回る。	・紙媒体の読書に加え、「佐賀新聞電子版」を読む。 ・指導教員も積極的に読書に取り組むことで、学校全体の意識向上を図る。	A	・毎週2日学習用PCを使った「佐賀新聞電子版」の日としたことにより、朝から自主的に学習用PCを開く習慣が身につくことも、時事問題への関心も高くなってきた(アンケートでは生徒の約75%ができていますと回答)。 ・校内読書会も生徒の読書意欲の喚起に繋がっている。	A	・貸し出し冊数は第1,3学年で昨年度より上回った。 ・週2日の学習用PCを使った「佐賀新聞電子版」の購読は概ね定着し、日頃から学習用PCを使う習慣に役立った。 ・第2回校内読書会ではグループ討議方式の読書会を実施することができた。	A	・家庭では読書の習慣がない生徒も、学校での朝読書の指導により、本を読む習慣が身についてきたと思う。 ・朝読書を利用して学習用PCを使う習慣を養う取り組みは評価できる。
	○基礎学力の向上 ・わかる授業の徹底と満足度の向上	○ブチテストの平均点を70%以上にする。 生徒アンケートを実施して授業改善に取り組み、生徒の授業への満足度を80%以上にする。	○就職問題を繰り返し実施。 ・1学期末に授業に対するアンケートをとり、それに基づき授業改善を行い、生徒の授業に対する満足度を向上させる。	・アンケートでは約80%の生徒が、基礎学力向上に向け前向きに取り組んでいると回答。これを受け、2学期には全教員が自身の授業に対する満足度を上げるよう授業評価アンケートを実施し、授業改善への取り組みに繋がっている。 ・各学年で全校生徒を対象とした学習会として300日前、200日前、100日前のイベントを開催し、挨拶や接遇の指導により事務局運営校としての機運を高め、他者への思いやりとおもてなしの心を育成する。	B	・アンケートでは約80%の生徒が、基礎学力向上に向け前向きに取り組んでいると回答。これを受け、2学期には全教員が自身の授業に対する満足度を上げるよう授業評価アンケートを実施し、授業改善への取り組みに繋がっている。	A	・アンケートでは76%の生徒が基礎学力向上に向け前向きに取り組めたと回答。2学期には半数以上教員が授業評価アンケートを実施し、授業改善への取り組みに繋がっている。生徒の学校満足度も80%(1・2年)、90%(3年)であった。	B
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○令和3年度の農業クラブ九連大会主催校として、おもてなしの心、相手を気遣う心への意識を80%以上にする。	・各学年で全校生徒を対象とした学習会として300日前、200日前、100日前のイベントを開催し、挨拶や接遇の指導により事務局運営校としての機運を高め、他者への思いやりとおもてなしの心を育成する。	B	・コロナ禍の中、多くの行事や交流活動が中止や縮小を余儀なくされているが、オンラインでの挨拶や接遇の指導を計画するなど様々な工夫をしながら、おもてなしの心を育成する取り組みを行っている。アンケートでは約90%の生徒が「マナーの向上」を意識して学校生活を送っていると回答。	B	・オンラインで農業クラブの仕組みや開催される大会の内容について各教室に配信し、次年度の農業クラブ九連事務局としての意識を高め、各県から集まるクラブ員への、おもてなしの心を醸成した。新型コロナウイルスの影響から200日前イベントは開催を断念した。	B	・生徒と教師とのコミュニケーションをもっと図ることで、生徒の情操を向上させることができるのではないかと。 ・学校生活全般での時間管理の周知徹底を図ることで、生徒の自主性を伸ばすことができるのではないかと。 ・校則の見直しが生徒の自主性につながるよう期待したい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめは、どこでも、誰にでも起こりうるので、いじめを受けている本人から教師に相談できる体制を整え、本人からの教師に訴える回数を昨年度より上回り、解決に導く。	・命の教育講話、SCIによる講話、SCとの面談、いじめ標語、いじめアンケート実施。 ・指導体制を見直し、風通しのよい教育環境を整備し、生徒が気持ちよく学べる学校づくりに取り組んでいる。	B	・各学年の担任団を中心に生徒に関する定期的な情報交換を行い、いじめの早期発見と早期対応に取り組んでいる。いじめ事案に対しては、適切な初期対応により早期に解決を図ることができている。いじめ対策委員会の機能も強化している。	A	・SCIによる講話や、いじめ防止のための標語への取り組みと、アンケートを実施し、各学年主任と担任を中心に早期発見と早期対応に取り組んだ。その結果、ゼロではないが、いじめ事案は初期対応により解決することができた。	B	・最近のいじめ問題にはスマホなどのSNSによるいじめが多いと聞く。今後、スマホの使い方や情報モラルについても、指導を徹底してほしい。
	○特別支援教育の充実 多様性を認め合う生徒の育成。	○障害のあるなしにかかわらず、共に生活しやすい環境を創る。障害であることを理由に差別を受けることを0(ゼロ)にする。	・発達障害をもつ生徒の保護者との信頼関係を築く。年度当初、学期半ば、学期末に面談を行い、本人、保護者の要望を聞き、ケース会議を開き、全職員への共通理解を図る。	・毎学期、個人面談週間、三者面談を実施し、得た情報をもとに、学年ごとの情報交換会、支援を要する生徒のケース会議を行い、共通理解と個別に合わせた共通指導の徹底を行っている。そのため生徒が最も嫌う、教師間の指導のばらつきもなくなり、教師と生徒との信頼関係の構築につながっている。	A	・毎学期、個人面談週間、三者面談を実施し、得た情報をもとに、学年ごとの情報交換会、支援を要する生徒のケース会議を行い、共通理解と個別に合わせた共通指導の徹底を行っている。そのため生徒が最も嫌う、教師間の指導のばらつきもなくなり、教師と生徒との信頼関係の構築につながっている。	A	・毎学期、個人面談週間、三者面談を実施し、得た情報をもとに、学年ごとの情報交換会、支援を要する生徒のケース会議を行い、職員との共通理解と個別に合わせた指導・支援を確認した。発達障害を理由に差別を受ける生徒はいなかった。	A
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○学校全体の出席率が98%以上にし、怪我や体調不良等による欠席者を減らす。 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒を80%以上にする。	・保健だよりの定期的な発行や生徒保健委員の活動関連する教科の授業を通して、望ましい生活習慣の大切さを理解させ、健康に関する意識を高める。 ・保護者との連携を密に行い、家庭での生活習慣改善に取り組む。	B	・毎日朝HPRで検温と健康観察を実施し、体調不良者への適切な指導を行い、望ましい生活習慣の形成に役立っている。 ・生徒の健康診断にあわせて保健だよりを発行し、日頃の健康管理や疾病予防の大切さなど生徒の意識を高めることができた。 ・アンケートでは約80%の生徒が、朝食をしっかりと摂り、規則正しい食習慣を心がけていると回答。	B	・定期的な保健だよりを発行し、日頃の健康管理や疾病予防に対する生徒の意識を高めることができた。 ・毎日朝HPRで健康観察を実施し、体調不良者への適切な指導を行い、望ましい生活習慣の形成に役立っている。 ・アンケートでは約85%の生徒が、朝食をしっかりと摂り、規則正しい食習慣を心がけていると回答。	B	・校内にパンの自動販売機が一つあるが、種類が少ないので、新鮮なパンの販売(サンドイッチなど)を検討してほしい。 ・学校生活すべての時間管理の周知徹底を図ってほしい。
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・部活動の休業日を遵守しながら、指導方法を工夫することで、競技力・技術力向上につなげる。 ・毎月、職員会議と職員研修を同日に行い部活動も一斉休業日としている。この取組も定着し、職員研修の充実、放課後会議の減少にも繋がっている。 ・行事の精選と内容の見直しを図り、準備にかかる時間の効率化に取り組む。	A	・新型コロナウイルスの影響で部活動が制限されたこともあるが、各部とも適切な休業日を設定し活動を行っている。 ・毎月、職員会議と職員研修を同日に行い部活動も一斉休業日としている。この取組も定着し、職員研修の充実、放課後会議の減少にも繋がっている。 ・新型コロナウイルスの関係で、行事の精選と内容の見直しが加速度的に進められている。教職員の意識も変化し、全職員がどう効率化に取り組むか考えるようになった。	B	・コロナ禍でも行事を中止するのではなく、対策を行いつながら実施した。生徒会総会やSSP杯社行会などはオンラインで実施し、体育祭やクラスマッチなどは感染症対策を先行実施した。どの行事でも、制限がある中で生徒が主体となって思い出を作る内容になるよう配慮した。 ・コロナ禍で一斉休校となったため、部活動編成は中止したが、動画での部活動紹介を実施したことで、一定数の部活動加入を得られた。	B	・全校生徒数は少ないかもしれないが、既存の部活動がそれぞれ顧問と部員が一体となって、部活動の活性化に取り組んでほしい。 ・部活動は特定の部活動以外はあまり活発ではない気がするので、学校全体として部活動の活性化に力を入れてほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教職員のITCスキルの向上及び生徒のICT活用推進	○教職員のITCスキルの向上 生徒がPCを使用する日数を授業日の50%以上にする。 生徒への配布物等については、ペーパーレス化に取り組み、生徒への配布印刷物前年比90%の減量に取り組む。	・教職員のICTスキルアップ研修を学期毎に実施して、授業への活用及び授業の効率化をはかる。 ・生徒のPC活用を推進するため、課題の提出や連絡事項の配布などにおいてもPCを活用する。 ・わかる授業の徹底と満足度の向上、専門教育での取り組みを強化し、専門高校としての教育内容の充実を図る。	A	・新型コロナウイルスの影響で部活動が制限されたこともあるが、各部とも適切な休業日を設定し活動を行っている。 ・毎月、職員会議と職員研修を同日に行い部活動も一斉休業日としている。この取組も定着し、職員研修の充実、放課後会議の減少にも繋がっている。 ・新型コロナウイルスの関係で、行事の精選と内容の見直しが加速度的に進められている。教職員の意識も変化し、全職員がどう効率化に取り組むか考えるようになった。	A	・新型コロナウイルス対策でオンラインを使った授業や集会等を積極的に取り入れ、65%の教職員がICT活用及び校務効率化に努めたと回答している。 ・取組を通して生徒のPC活用能力は、75%(1・2年)、87%(3年)の生徒が少なからず高まったと回答。 ・専門教育に興味関心を持って取り組むことができたことと回答した生徒は、82%(1・2年)、94%(3年)であった。	A	・学習用PCの活用率をもっと上げる取り組みをお願いしたい。 ・コロナの影響で、学校行事や授業を参観する機会が減り残念であった。次年度は、学校全般を参観する機会を増やしてほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○進路保障	○求人減少が予想されるなかでの求人開拓 ○3年生での朝の10分進路学習および就職特課の実施 ○朝特課の有効な運用 ○個別進路指導の充実	○進路達成率100% ○佐賀大学合格達成 ○公務員への合格者を出す	・進路希望調査に基づく企業への求人依頼。 ・朝HPR前10分間で進路学習。6月からは就職朝特課。 ・朝特課進学指導を1年生の10月からとし、それまでは進学することへの理解と自己評価に努め、以後は2年生終了まで継続。3年生からは放課後等の個別指導。	B	・就職希望者対象の朝特課と朝読書10分間を利用した進路学習を設定し、生徒の基礎学力の向上と就職試験対策の徹底を図った。求人数が前年比約20%減少する中、10月16日から始まる就職試験での結果に繋がると期待している。 ・夏期休業中、3年生の登録日を設定し、マナー講話、面接指導、履歴書・作文・小論文指導、マナー検定等徹底した進路対策を実施した。全職員での個別面接指導等も実施している。	A	・求人数は例年よりも減少したが、電話等による新たな求人開拓が功をなし、1月末現在で進路決定率100%を達成した。 ・放課後個別指導により佐賀大学農学部合格者2名、佐賀県公務員合格者2名を達成した。 ・本校の進路保障に対する取り組みに対して、保護者の約85%が評価していると回答した。	A	・生徒たちへのきめ細やかな指導を続けていただき、それぞれが個性をもって、社会で活躍できる人材を育成されることを期待したい。 ・徹底した進路指導により希望する進路を実現させることができた。
◎専門教育の充実	◎先進的かつ魅力的な専門教育を通して各分野への興味関心を深め、明確な進路意識を持った専門学習になるよう、志を高める教育を目指す。	○誇りを持って専門教科の学習に取り組む生徒を70%以上にする。 ○プロジェクト学習の推進を図り、地域貢献につながる研究活動と広報活動を行う。	・各学科とも先進技術を取り入れ、マスターなどプロの技術を学んだり、高志館ブランドの商品の販売などを行い、それらを県民に広報することで生徒の充実感を高める。	B	・コロナ禍の中、各学科で計画されていた先進技術を持った外部講師の講義や現場研修が中止や延期となっているが、校外の実験実習を工夫しながら対応している。 ・学校生産物の販売会も、ドライブスルー方式を取り入れたリ、ソーシャルディスタンスとマスクや消毒の動向により感染症対策の徹底を図っている。 ・大和町で生産されたニラを使った商品開発や高志館ブランド「かき壺牛蒡」の開発などに積極的に取り組んだ。また、NPQ法人と連携し、SDP活動を推進し、佐賀市の活性化に向けた様々な活動に取り組むことができた。	A	・学校生産物の販売では、ドライブスルー方式やネット予約など新しい様式を取り入れたリ、ソーシャルディスタンスとマスクや消毒の動向により感染症対策を徹底して実施することができた。 ・大和町で生産されたニラを使った商品開発や高志館ブランド「かき壺牛蒡」の開発などに積極的に取り組んだ。また、NPQ法人と連携し、SDP活動を推進し、佐賀市の活性化に向けた様々な活動に取り組むことができた。	B	・学校生産物の販売をおとして、積極的な地域交流が実践されていると思う。 ・学校生産物をもっとPRすることで、学校の専門教育を外部にもっと知ってもらい知名度を上げられるのではないかと。 ・専門の実習等を通して、働くことの意義をよく理解した生徒が育ってきていると感じている。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、行事の精選や効率化を図りながらも、生徒にとってより良い学校生活の構築に向け取り組んだ1年であった。その結果、本年度の重点項目に対し一定の成果を得ることができた。学校生活満足度では、生徒満足度84%、保護者満足度93%であり、進路保障についても、早い段階で進路決定100%を達成することができた。 ・生徒募集に関しては、本校の魅力が十分に発信できていないという意見が多く寄せられており、次年度はコミュニティスクール事業を推進し、地域と一体となった唯一無二の学校づくりに取り組んでいきたい。 ・次年度は農業クラブの九州連盟事務局を担当予定であり、九州連盟大会成功に向けた取り組みを積極的に進めていく。
----------------	--